

# ごみ処理の仕組み 学んだよ

6月3日、中央小学校4年生を対象に、環境業務課による出前授業が行われました。同授業は、ごみの分別や資源化への理解を深めてもらうことを目的に毎年実施されています。

はじめに教室で、ごみの種類や資源として再利用できるごみについて学習しました。プラスチック資源の見分け方や、今年3月に発生したリチウムイオン電池を含む製品による発火事故を例にあげて、実物や写真をもとに、分別の大切さの話がありました。児童たちは積極的に手を挙げて発言しながら、真剣な表情で話に聞き入っていました。

講座の後半は校庭に移動し、ごみ収集車3台による収集作業の実演を見学しました。木製ベンチや自転車などの大型ごみが次々と車内へ吸い込まれ、細かく粉碎される迫力ある光景に、児童たちからは驚きの声が上がりました。楽しみながらごみ処理の仕組みを学ぶ機会となりました。

環境業務課

中央小学校4年生に出前授業

ごみ収集車で大型ごみを粉碎する様子  
教室での授業



## まちの 話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 盤面見つめ知恵尽くす 207人熱戦



多面指し指導で子どもたちと対局する佐藤九段

### 第28回佐藤康光杯争奪将棋大会

八幡市出身のプロ棋士、佐藤康光九段を迎えた「第28回佐藤康光杯争奪将棋大会」が6月21日、文化センター小ホールで開催。同大会は、佐藤九段が平成10年に第56期名人位を獲得した翌年から市などが開催。市内外から7歳から91歳までの207人が、知恵を尽くした熱戦を展開しました。開会式で佐藤九段が「将棋はどこまで考えても尽きない面白さがある、今日は悔いのないように成果を発揮してく

ださい」とあいさつ。その後、段位や年代別の5クラスに分かれ、対局開始。参加者は真剣なまなざしで盤面を見つめながら次の一手を考え、次々と駒を打つ音が会場に響きました。また、佐藤九段らプロ棋士による多面指し指導対局も実施。対局後には、勝負の分かれ目となった局面や指し手について講評がありました。指導対局で佐藤九段と対局した塩見繕くん(10)は「終盤まで佐藤九段はずっと強くて難しかったけど頑張った」と話していました。

## 風船の中壁いっぱいにアート



風船の壁に自由に絵を描く子どもたち

### あいあいポケットで「ふうせんえのぐワークショップ」を開催

6月13日、あいあいポケットで、親子を対象としたアートのワークショップが開催され、1歳から6歳までの親子20組、50人が参加しました。講師は、大阪・関西万博にも出展したアーティストの奥中章人さん。普段は味わえないスケールの表現活動を通して、感受性や認知力、造形表現を育むことを目的に実施されました。はじめに参加者は、大きなビニールの上からペンを使って下書きに挑戦。どれだけ大きな丸が描けるか体を動かし

たり、寝転んだ保護者の体の輪郭をなぞり、作品の一部として描き加えたりする姿も見られました。後半には、下書きをしたビニールを膨らませた巨大な風船が出現。子どもたちは風船の中に入り、自分が描いた絵を見つけて大喜び。さらに絵の具を使い、発想力を生かして風船の壁いっぱいに思い思いの絵を描いていました。参加した栗生海希くん(6歳)は、「友達とたくさん色を使って楽しかった」と笑顔で話していました。

## 今月のこの人



くすのき小学校4年生。小学3年生の時に青少年読書感想文全国コンクールでサントリー奨励賞を受賞。

萬田帆海さん

## 青少年読書感想文全国コンクールでサントリー奨励賞

「本を通して歴史を学ぶのが好き」と笑顔で話すのは、小学4年生の萬田帆海さん。萬田さんが読書を好きになったきっかけは、児童向けの『源氏物語』でした。物語を通じて歴史上の人物に興味を持ち、その後は紫式部や源義経などの伝記を次々と読むようになったそうです。「授業で歴史上の人物

が出てきた時に、すでに知っていることもあった」と話します。お気に入りの読書場所は自宅の階段。「静かで落ち着くので、一番集中できる」といいます。また、学校の自主学習では、本を読んで興味を持った歴史上の人物について調べ、紹介することも多いそうです。昨年は青少年読書感想文全国

コンクールでサントリー奨励賞を受賞。「家族みんなが喜んでくれた」と振り返ります。本を読むことと、幼稚園の頃から続けている体操が大好きという萬田さん。将来は、絵本作家になりたいという夢があり、今年の夏には「日中韓童話交流2026」という海外研修を予定しています。「今からとても楽しみ」と期待に胸を膨らませていました。